

## 第 VIII 部 Service Marketing

### 2 生産とサービスと労働

#### ポイント

- 特別な意味を持たせた『言葉』
- 『労働』とは

- 『生産』とは
- 『サービス』とは

#### 2.1 はじめに

- 言葉は状況によって意味が変わります。
- 意味が変わると議論ができません。
- 議論をするために言葉の意味を整理します。

## 2.2 表記に関して

- 配付資料において、特別な意味を指していることを明示するために『』を使用しています。
- 表記において『』であらわした語は極めて限定した意味を持っていることをあらわしています。

## 2.3 古典経済学の仮定

- あらかじめ『市場』は形成されている。
- 『富』の保管にはコストはかからない。
- 『富』は劣化しない。
- 『市場』に出せば『富』は容易にお金に換えることが可能。
- 『市場』は常に開催。
- 価格は『市場』で形成。
- 『富』の現金化への労力はゼロ・かかる時間もゼロ・如何なるコストもゼロ。

## 2.4 『労働』という言葉

- 行為には最終的に金銭につながるものと、つながらないものがある。
- 金銭につながる行為を『労働』という。
- 採取・製造・加工などの行為の場合、成果が『富』となる。
- 採取・製造・加工以外の行為の場合、成果は『富』ではない。
- 成果が残るか否かに関わらず、最終的に金銭を得ることにつながる行為を『労働』という。

## 2.5 行為の成果が「物理的なモノ」の場合

- 市場が形成されている場合。
  - 「物理的なモノ」はそこがあれば、いつでも現金化できる。
  - この時の「物理的なモノ」を『富』とよぶ。
- 市場が形成されていない場合。
  - 金銭に換えられない。
  - 将来的に市場が形成されることはないと仮定。
  - 単なる無価値な物体『ゴミ』。

## 2.6 行為の結果が物理的なモノかどうかの分類

- 「採取・製造・加工」のことを『生産』という。
- 『生産』の結果は『物理的なモノ』。
- 「採取・製造・加工」以外のことを『非生産』という。
- 『非生産』の結果は『物理的なモノではない』。

## 2.7 金銭につながるかどうかの分類

- 『行為』の結果が金銭につながる場合、『労働』とよぶ。
- 『行為』の結果が金銭につながらない場合、『非労働』とよぶ。
- 『富』を経由しようが、経由しまいが最終的に金銭を得る行為が『労働』。
- 『富』を経由して金銭を得る行為が生産的労働。
- 『富』を経由せず金銭を得る行為が非生産的労働。
- 古典経済学では『富』迄しか議論されておらず、『富』を金銭に変える話は含まれていない。

図1 行為と成果の関係

		行為の結果	
		金銭になる	金銭にならない
成果	物質	『富』	『ゴミ』
	物質以外	『サービス』	『ムダ』

## 2.8 まとめ

- 古典経済学は『富』の創造と保有を重視。
- ここでは『サービス』を議論するのが目的。
- 『富』ではない価値あるものが『サービス』。
- 生産的労働の結果が『富』。
- 非生産的労働の成果が『サービス』。
- 価値の有無はあらかじめ決まっているものではなく、状況によって変動する。
- 『富』を議論から除くのが重要。